



関西珠洲会だより

関西珠洲会
発行責任者
会長 宮崎 和夫

被災した能登の漁師に職場を創る！ 「警戒船業務講習会」を関西珠洲会が企画

警戒船業務講習会

日時：6月22日（土）

場所：珠洲商工会議所

主催：海上保安庁 七尾海上保安部

海上の港湾工事で、周囲の警戒や交通整理などに従事するための「警戒船業務講習会」が6月22日に珠洲市の珠洲商工会議所で開催され、50名が受講されました。

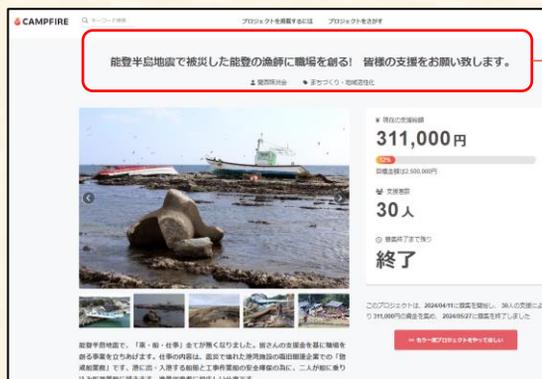
この講習会は「関西珠洲会」顧問の坂本成昭さんが中心となって企画し、七尾海上保安部、珠洲商工会議所などの協力を得て開催されました。

坂本さんは神戸、大阪港にて港運会社で働いた船乗りで、ご自身も警戒船の管理業務に当たってこられました。また「阪神淡路大震災」を神戸にて被災し、その厳しさも経験されています。

警戒船は港湾工事の際、作業船をはじめ、付近を通る船舶が事故に遭わないように監視し、交通整理などを担うもので、一部で漁船も活用できるとして、坂本さんは「地元の海を熟知する漁師にとってふさわしい仕事」と考え、地震発生後の1月17日には、七尾海上保安部に「警戒船業務講習会」の開催を相談し、5か月後に多くの方の協力のもと実現しました。



「警戒船業務講習会」の当日の様子。「警戒船」の赤い旗には坂本さんの熱い想いが込められています。



能登半島地震で被災した能登の漁師に職場を創る！
皆様の支援をお願い致します。

インターネットを通じて資金を募る仕組みのクラウドファンディングにもチャレンジしました。

集まった寄付金で、警戒船業務に必要な無線機や拡声機も購入して寄贈します

「警戒船業務講習会」の様子は複数のメディアでも取り上げられました！

能登の漁師に「助け舟」…漁港復旧工事 警戒船業務「生活の糧に」

＜読売新聞 2024年6月22日＞



「漁再開までの生活の糧にしてほしい」と計画に取り組むのは、能登出身者らでつくる「関西珠洲会」顧問の坂本成昭さん（79）だ。外航貨物船、大阪や神戸の港運会社で働いた元船乗りで、警戒船の仕事の経験もある。・・・

・・・警戒船の業務に就けることに、珠洲市の狼煙のろし漁港・高屋地区を拠点とする漁師の番匠栄作さん（73）は「海の仕事に携われる」と喜ぶ。

遠洋漁業に従事後、古里で40年以上、刺し網漁で生計を立ててきた番匠さん。相棒の「栄光丸」（7・9トン）でタイやブリなど旬の魚を取るのが生きが이었다。

収入も途絶える中での新たな仕事は「助け舟」になると期待され、「漁港の復旧を支援し、漁の再開につなげたい」と語る。

地震で被災した漁師のなりわいを支援 港の安全を守る警戒船業務の講習会

＜MRO北陸放送 2024年6月22日＞



珠洲市では、地震で船を失ったり港の復旧が進んでいなかったりなどの理由で未だ多くの漁師が漁に出られない状態が続いています。

こうした中、珠洲市や能登町出身の関西在住者でつくる「関西珠洲会」が港などでの工事海域に他の船の進入を防ぐ警戒船業務のノウハウを活用し、漁師たちの収入源を確保しようと今回、講習会を企画しました。



漁師・宮崎宜夫さん
「海を眺めていて漁に出られないというもどかしさ、悔しさというか。今後のなりわいをしていく上では必ず必要な事業の一つ」

関西珠洲会・坂本成昭顧問
「何とか生活の糧となる仕事を作ってあげたいなど、皆さんに呼びかけた」